

## 仏教壮年会連盟 令和6年能登半島地震 評議員ボランティア研修参加報告

仏教壮年会連盟副理事長  
大分教区仏教壮年会連盟理事長  
高岡 秀和

能登半島地震で犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

2024(令和6)年7月25日(木)～27日(土)に、仏教壮年会連盟 令和6年能登半島地震 評議員ボランティア研修に参加し、地震と津波により被災されたお寺でボランティア活動を行いました。

このたびのボランティア研修は、評議員の有志が、浄土真宗本願寺派能登半島地震支援センターが募集するボランティアに申し込むかたちで開催されました。

津波に襲われた本堂、庫裏には大量の海砂が残っていました。ここに至るまでにも多くのボランティアの皆さんの支援活動があったと思います。

私たちは、床下の砂などの流入物の撤去や、災害ごみの分別搬出作業などを行いました。研修の様子を、写真とともにご報告します。

7月25日(木)夕方、金沢別院内の令和6年能登半島地震 浄土真宗本願寺派能登半島地震支援センターに集合しました。参加者が揃い、翌日の活動のミーティングを行いました。



本願寺金沢別院本堂



25日(木)のミーティングの様子



26日(金)は、朝から輪島市に向かいました。



多くの方が犠牲になった、輪島朝市大規模火災の現状を目の当たりにしました。  
重機は入っていましたが、いまだに焼け残った建物や車が残っている状態でした。

その後、活動先である能登町に向かいました。



輪島市周辺の大規模な地滑り



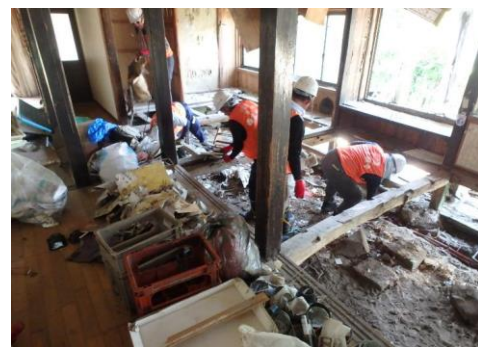
割れた能登町の道路

支援活動先のお寺に到着すると、津波によって本堂、庫裏に大量の海砂が流入していました。

私たちは、支援センターの方から説明をしていただき、これまでも行われてきた支援活動を引き継いで、床下の流入物や海砂の撤去、災害ごみの分別作業等を行いました。

1日の活動を終えた後は、支援センターに戻りミーティングを行い、翌日の27日(土)も、同じお寺で支援活動を行いました。





海水に浸かった床板を外し、流入物を撤去していく



分別作業の様子。燃えるゴミ、プラ、鉄などを分別していく



分別後の搬出の様子。この後、支援センターの方に  
運んでいただいた



活動終了後の様子



活動したメンバー

仏教壮年会連盟より評議員 9 人と事務局 1 名、能登半島地震支援センター職員 2 名

27 日(土)の活動終了後は、能登半島地震支援センターに戻ってミーティングを行い、私たちのボランティア研修が終了しました。

今回の研修で、震災から半年以上が過ぎても倒壊した家屋がそのままの様子を目の当たりにし、被災地の現状は想像していた以上に深刻だと感じました。

諸行無常とはいえ、楽しかったはずのお正月の光景が、一瞬にしてこのような状況に変わってしまったことに言葉を失いました。

災害はいつどこで起こるかわかりません。この震災をわが事として考えなければならないと思いました。

今後も息の長い支援活動をしていきたいと思います。そのためにも、仏壮の多くの皆さんと想いを共有していきたいと思います。